慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	十時, 嚴周(Totoki, Toshichika)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1981
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.54, No.6 (1981. 6) ,p.5- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	米山桂三先生追悼論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19810615--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

物故者追悼論文集の「序」を起草することは、学部長として遂行しなければならない職務のなかでも、もっとも哀しい役目の一つにあたる。学部長として、筆者はすでに「市川統洋助教授追悼論文集」（法学研究第五十三巻第九号）の序を執筆したことがある。同君は奇しくも筆者と同じ専攻に属し、同君を法学部専任教員に推挙した間柄でもあつた。序の起草は難渋をきわめた。

そして、再び「米山桂三先生追悼論文集」の序を執筆することになつた。米山先生は筆者の生涯におけるただ一人の「学問の師」であり、研究生活のイロハから訓練していただいた文字どおりの「恩師」にあたる。恩師の追悼論文集に序を寄せる巡りあわせに、筆者は、市川統洋君の場合と重なりあつて特別の感慨を禁じ得ない。

米山桂三先生の略歴ならびに主要著作目録は、「米山桂三教授退職記念論文集」（法学研究第四十五巻第三号　昭和四十七年）ならびに米山桂三博士還暦記念論文集『日本社会と近代化』（慶応通信　昭和四十二年）に詳しく述べられているので改めて触れることはしない。しかし、米山先生が法学部に貢献された事績は、『法学研究』第十五巻第三号（昭和十一年）に論文「本能と政治（一）」を掲載されて以来三十数年にわたる研究業績を通し、同時代人のわれわれならびに直接謦咳に接することが最早できなくなつた後続の学部専任者によつて、末長く語り継がれていくことは間違いない。先生は法学部の偉大な先達の一人であつた。

研究者としての先生は、同時に、法学部長としての学事行政にも重要な功績を残されている。社会学者としての時代の鋭い観察眼は、激動期に突入した昭和三十年代、すでに今日あることを予期しておられた。学際的方法の必要性、地域圏研究

の推進、国際化への学部の対応策等、つねに新しい問題意識を持ち続けてこられた。

学事行政の手腕は、長年にわたり兼務されてきた新聞研究所所長あるいは大学院社会学研究科委員長としても遺憾なく発揮されてきた。性来激し易い性格の先生としては、細心の注意と絶大な忍耐力によつて、先生本来の仕事とはやや異質な行政的役割をも完璧に遂行されてきた。その心の配りようと自己規制の在りようは、身近な弟子の眼からみると、時には痛々しい位いに感じられることもあつた。

先生は、昭和四十七年三月、慶應義塾を定年退職された後も、東海大学政経学部教授および同政経学部長として後進の指導にあたつてこられた。その間、塾在職中から、日本社会学会理事、日本新聞学会理事ならびに同会長、日本広告学会理事として、学会のためにも長年尽力されてきた。考えてみると、先生の七十三年にわたる生涯は、塾内外を問わず、多くの専門領域で多くの優れた研究者を指導し育成してこられたことになる。

本追悼論文集は、かつて先生から直接教えを受けたことのある数多くの専門領域にわたる研究者の執筆によつて刊行された。その意味で、この論文集の構成は、先生の研究者としての生涯の基本的な部分を反映しているといつてよい。

昭和五十四年十一月十七日、先生がご逝去になつてから月日は矢のように過ぎ去つていつた。いつまでたつても、筆者にとつてつねに先生であり続けている米山先生のご冥福を心から祈りつつ、序を終りたいと思う。

昭和五十六年六月一日

法学部長　十　時　嚴　周